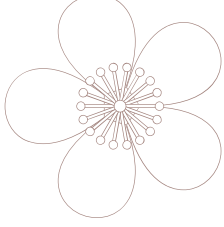


太宰府市民遺産は、景観・市民遺産会議の納得をもって認定されます。納得のためのめやすとして以下の指標が設定されています。

<p>1.伝えたい太宰府固有の物語である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 採集に守り伝えていきたい物語が、地域の人々や市民が共有でき、納得できるものである。 <input type="checkbox"/> 太宰府市民が大切に思う物語である。 <input type="checkbox"/> 市民が共有しやすい、納得できる。 	<p>【納得できる価値の説明】</p> <p>2.物語が、文化遺産で構成されている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物語が文化遺産で構成され語られている。 <input type="checkbox"/> 文化遺産の所在が明らかである。 <input type="checkbox"/> 文化遺産の所有者等が明らかである。 <input type="checkbox"/> 構成する文化遺産の歴史、意味、育成すべき価値などが明らかとなっている。 <p>【完全性・真正性】</p>
<p>3.文化遺産を保存活用する活動である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立的かつ継続的な活動である。 ・ 文化遺産の育成にふさわしい活動である。 <input type="checkbox"/> 自立した活動である。 <input type="checkbox"/> 継続性を見込んだ活動である。 <input type="checkbox"/> 他団体等との連携に配慮されている。 <input type="checkbox"/> 育成したい文化遺産の所有者・管理者に対し、了解が得られている。 <input type="checkbox"/> 育成活動が、文化遺産の価値を保存活用するにあたって適切な活動である。 <p>【持続可能性】</p>	



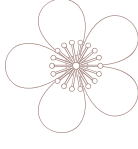
■ 太宰府市民遺産会議ホームページ
<http://www.city.saijoh.lg.jp>
 ■ 太宰府市民遺産についての問い合わせ先
 太宰府市教育委員会文化財課
 〒818-0198 太宰府市観世音寺1丁目1番1号
 ☎ 092-921-2121（内線470）



第4回 太宰府市景観・市民遺産会議

日時：平成26年3月22日 14:00～16:10

場所：九州国立博物館ミュージアムホール



★ プログラム	・・・1
★ 平成24年度認定市民遺産の活動報告 (隈塾公のお墓、太宰府の絵師 菅島家)	・・・2
★ 提案市民遺産候補：苅萱の閑跡とかるかや物語	・・・3
★ 太宰府市民遺産認定に関する指標	・・・4

－ プログラム －	
13:30	開場
14:00	開会
1.	平成24年度認定の太宰府市民遺産の活動報告 ◆ 太宰府市民遺産第7号「隈塾公のお墓」／隈文化保存会 ◆ 太宰府市民遺産第8号「太宰府の絵師 菅島家」／絵師菅島家保存会
2.	太宰府市民遺産候補の提案 ◆ 苅萱の閑跡とかるかや物語／かるかや物語を伝える会
3.	市民遺産を物語るうた ◆ 万葉集つくし歌壇／太宰府万葉会 ◆ 太宰府における時の記念日の行事／辰山会
4.	市長あいさつ
16:10	閉会（会議の進行状況によって、終了時刻が多少前後する可能性があります。）

※エントランスホールでは、認定市民遺産や育成団体を紹介するポスターセッションを開催します。

太宰府市民遺産第7号：隈廩公のお墓

景観・市民遺産育成団体：隈文化保存会

【育成団体の紹介】

菅原道真公の息子、隈廩公のお墓は、長い間塚区の住民たちによって世話が続けられてきました。これからもお墓の世話を続け、隈廩公のお墓と住民たちの物語を伝えていきます。

【平成25年度の主な育成活動】

- 春まつり／4月15日
- 六弁の梅の実ちざり／6月
- 太宰府市民遺産展／6～8月
- ギャラリートーク／6月
- 夏まつり／7月15日
- 太宰府市民まつりでPR活動／10月
- 太宰府館で展示／10・11・1月
- 「福祉まつりみなみ」で展示紹介／10月
- しめ縄を新調／12月末

【今後の活動計画】

- 隈廩公のお墓の世話
 - ・周囲の清掃
 - ・神を供える
- 春まつり（4月15日）と夏まつり（7月15日）の協力
- 隈廩公のお墓、菊武賢太郎さんとトリさんの物語を伝える活動
- ・子ども会を話をする、区の住民による清掃活動をする など



春まつり



ギャラリートーク



六弁の梅の実のふるまい



夏まつり



「福祉まつりみなみ」の展示



しめ縄の新調（12月20日）

太宰府市民遺産第8号：太宰府の絵師 萱島家

景観・市民遺産育成団体：絵師萱島家保存会

【育成団体の紹介】

萱島家は、幕末から続く町絵師の家系で、掛け軸や絵馬など、多くの作品を残しています。親子四代にわたって残されてきた作品群と、町絵師としての萱島家の物語を伝えていきます。

【平成25年度の主な育成活動】

- 聴松園での企画展示
 - 春の展示 薫風華籠／4月～6月
 - 夏の展示 十八羅漢／7月～8月
 - 秋の展示 リョーリョーマイマイ 龍神の奇跡 水瓶山の龍上げ展／10月～12月
- 歩かかん太宰府とのコラボ
- 古都の光への参加／9月
- 太宰府市文化ふれあい館「まるごと太宰府歴史展」への展示品の貸出
- 九州歴史資料館「五柳と志士」への展示品の貸出
- 龍上げの聞きとり・資料調査及び整理
- 博多どんたくに使用された傘絵に係る資料の整理
- 十八羅漢の画稿整理



古都の光のようす



龍上げ展のようす

【今後の活動計画】

- 「太宰府の絵師 萱島家」に関連する講演 など

提案市民遺産候補：刈萱の関跡とかるかや物語

提案団体：かるかや物語を伝える会

【伝えたい物語】

「刈萱の関」は、中世、太宰府市坂本の関屋の交差点あたりにあったと伝えられる関所のことであり、「関屋」の地名の由来となったと伝えられています。文明12年（1480）にここを通った連歌師・崇祇は、「かるかやの関にかかる程に関守立ち出てわが行くすえをあやしげに見るもおそろし」と書き残しています。江戸時代の絵図や明治期から戦前の観光地図や絵葉書でも紹介されており、当時から太宰府の観光名所であった事がうかがえます。この刈萱の関を有名にしたのが刈萱の関の関守であった刈萱道心とその息子・石童丸との悲しい物語です。物語は次のような内容です。

「刈萱の関の関守であった加藤左衛門尉繁氏は、花見の宴で笹の花が散ったことに無常を感じ、子を宿した妻と離れ、高野山で出家、刈萱道心と名乗り、修行の道に入る。この時残された子が息子の石童丸である。繁氏の出家後に生まれた石童丸は、父恋しさに母とともに高野山に父を訪ねる。女人禁制の高野山に入れない母を強して登ると立派な僧に出会う。この僧が道心であるが、父のことを尋ねると、くなくたと告げられる。仏門に動ぬ道心は自分が父親と名乗ることが出来なかったのである。石童丸がやむなく藤の窟に長ると、母は長旅の疲れで病死していた。さらに、筑紫に長ると、二人の隔りを待っていた姉の千代節もすでに病で亡くなっていった。石童丸は再び高野山に上って道心を訪ね入門し、道念と名乗り修行に励む。長野の善光寺に行くと更に修行を続けた道心であるが、生涯父と名乗ることなくこの世を去った。」

この物語は、古くは中世に高野聖によって全国に流布され、江戸時代には説経謡、浄瑠璃、歌舞伎、文楽、能など様々な芸能で演じられました。太宰府では、水城尋常高等小学校の『郷土脚本』（昭和12年発行）に掲載され、子どもたちに教えられたほか、昭和30年（1955）には、旧太宰府町と水城村の合併記念として水城小学校の生徒による劇「石童丸」が太宰府天満宮の文書館で演じられ、その後も何度か水城小学校の講堂で演じられました。

この物語のゆかりの地は全国各地にあります。太宰府市の国分には繁氏の身代わりとなり命を落とした侍女・稲子を祀ったとされる稲子地蔵、福岡市には繁氏（幼名：石童丸）の出生に関わると思われる石堂地蔵があります。遠方では、高野山に二人が修行に励んだとされる刈萱堂、その麓の橋本市学文路には石童丸の母・千里を弔ったとされる学文路刈萱堂、童謡「夕焼け小焼け」の鐘で有名な長野の往生寺には刈萱道心が葬られた刈萱塚、長野の西光寺には二人が作ったとされる稲子地蔵が伝えられており、各地で伝承活動が行われています。

全国的に知られ、市外からも訪問者のある刈萱の関を、これからも地域の歴史文化として伝えていくために、地元の本郷区・通古賀区の住民とともに育成していきたいです。

【物語の基礎となる文化遺産】

- 刈萱の関跡の石碑／太宰府市坂本
- 高野山刈萱堂／和歌山県伊都郡
- 学文路刈萱堂／和歌山県橋本市
- 刈萱道心と石童丸の物語
- 安楽山刈萱堂往生寺／長野市往生地
- 昭和初期の絵葉書
- 刈萱山寂照院西光寺／長野市北石堂町
- 石堂地蔵尊／福岡市博多区

【育成活動】

- 刈萱の関跡石碑周辺の美化活動
- 刈萱の関、刈萱物語についての学習会の実施
- 地域のみなさんに刈萱の関跡とかるかや物語を伝えるための行事などをとする
- 刈萱の関跡を史跡めぐりやまち歩きコースに取り入れていく史跡解説ボランティアや歩かかん太宰府との連携



「刈萱の関跡」周辺地図



刈萱の関跡石碑（太宰府市坂本1丁目）



郷土脚本 中巻（昭和12年）（太宰府市文化ふれあい館蔵）



かつての刈萱の関跡を伝える稲子地蔵の絵葉書



稲子地蔵（太宰府市国分3丁目）



かるかや物語を伝える会 発足式 平成26年1月23日